

●平成29年度市政懇談会市長あいさつ

平成29年度市政懇談会を開催いたしましたところ、本当に今日は大変蒸し暑い日でもありますし、何かとご多用のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。また、この一中地区の皆さま方には、特にこのコミセンの活動、コミュニティの活動を通して、大変市政に対しましてご理解とご尽力をいただいております。改めて感謝を申し上げたいと思います。

また、繰り返し申し上げさせていただきますが、このコミセンの地域運営を真っ先に取り組んでいただいたのは、この一中地区でもありまして、青少年の健全育成、防犯パトロール、いろんな分野で積極的に活動に取り組んでいただいておりますことを本当に心から敬意を表したいと思います。

私のほうからは、今、市が取り組んでいる、そしてまた問題、課題として捉えていることを少しお話させていただいて、ご挨拶にかえさせていただきますたいと思います。市の今年度の予算については後ほど総務部長からご説明を申し上げますが、市の財政状況について申し上げますと、市、ひたちなか市の財政は、決して貧乏な団体ではありません。財政力指数も1を超えたことがあるわけでありますから、法人からいただく法人税の関係で、それから市民税、固定資産税と、通常の行政のレベルを賄うのに、ほぼ財源は皆さま方から頂戴している一般財源で賄えるというような団体ではあります。そうはいいまして、この地域への東部の第1区画整理事業もほぼ仕上げの段階に来ておりますが、最終的に大幅な見直しを实はさせていただきました。今、市内で7地区の区画整理を施行中でありますが、全国的にこの多くの区画整理はいまだ現在進行形でやっている団体は、ほとんど全国にはない状況であります。勝田市は区画整理の先進地でありましたので、その勢いというものがあったとは思いますが、今まで38地区完了しておりますが、今、地価が本当に上がらなく下がって、本当に底を打っているかどうかという判断はありますが、非常にそういう意味では財源を賄うのが厳しい事業であります。したがって、大幅な今見直しをさせていただいております。見直し後には20年以内におおむねこの区画整理事業は完了させるということでありまして、東部第1については、もっとそれより早く終えるという目標でやっているわけでありまして、市がなかなか毎年度の予算で計上している予算や借入金だけでははかれないいわゆる負担、負債があるものでありますから、区画整理事業の見直しをさせていただきました。

それから、昨年12月いっぱい、ひたちなか市の住宅都市サービス公社を解散整理しました。これは、銀行から借り入れをして、土地がどんどん下がる中で、借金ばかり抱えていると、市に負担しなければいけないと、そういうことで第三セクターなわけでありまして、三セク債を借りまして、市民にも申しわけありませんが、ご負担をいただきながら、10年から15年をかけて返済するという、そういうスキームで解散をさせていただきました。ただし、破産処理をすると、本当に管財人に頼んで、投げ売り状態になりますので、非常に地価もさらに下がってしまうと、そういうことで実はADRという手法を国内でもほと

んど例がない、自治体では例がない例であります、活用させていただいて、時価で売却をしながら、商品土地として売れるものは、ほぼ全て売って解散をするということで、隠れ借金的なものはないと私のほうから申し上げたいと思います。これは、普段、普通の方はなかなか市の財政や予算書見てもわからないことのほうが多いのは申しわけないのですが、そういう意味で、ひたちなか市は目に見えない負債とか、将来負担については区画整理の見直しの計画も明示させていただいているわけでありますから、そういう構造になっているということをご理解いただければと思います。これは、ひたちなか市の最大の財政上の課題であります。

それと、今年度の予算の中で、特に力を入れるという意味では、昨年8月の連続集中した豪雨の影響であります、市内でも何年かぶりに床上浸水が生じた地区があります。これにつきましては、やはり河川の整備がどうしても上流のうちが建っている市街化区域のほうから河川整備、雨水排水をやってきたという経緯がありまして、下流はなかなか吐けない状況にあって、下流の整備が十分ではありませんので、一気にまた流すと余りにも影響が大きいということで、全部がきれいに下流側に流れるというような状況ではなく、この地域の実態からいいますと、中丸川の親水公園も実はダム为建设計画なのです。あそこを整備するには、まだ少し時間がかかっております。市としての公園整備は29年度でおおむね終わりますが、ダムの整備としては、少しまだ時間をいただくというような状況になっています。したがって、この予算の説明の後に、ひたちなか市の治水計画、洪水に関する治水計画を皆さま方に簡単にご説明をさせていただきたいと思っております。

なお、三反田をはじめ、那珂川の無堤地区がありますから、これは国にもしっかりと要望させていただきながら、地元で用地買収等に入っていただいておりますが、なかなか常総の鬼怒川の決壊等が非常に大きなインパクトにはなっておりますが、予算が全体的にやはり幾らあっても足りないような状況の中で、国交省に強く要請をさせていただいております。これ非常に喫緊の課題であると考えております。

それから、安全の対策としましては、やはり原発に関する市としての対応がありますが、これもここ二、三年、ずっと原電と、日本原子力発電株式会社と交渉しているわけですが、今、東海村と茨城県だけが立地自治体ということで協定を結ばれていますが、福島原発の状況を見ると、とてもその範囲内ではおさまらないというのは、自明なことでありますから、隣接であるひたちなか市も所在自治体として協定を見直すように強く要請をしています。これは、東海村を含む周辺の6市村、私含めて市町村長が同じ気持ちで今取り組んでいるところであります。原発の再稼働に当たっての重要な判断は、当然我々の意見を反映させるべきであるということでもあります。

それと、安定ヨウ素剤の配布もひたちなか市の独自方式でさせていただいておりますが、これも国の方針は、5キロ圏、PAZ圏については事前に説明会を開いて、そこに足を運んでいただいて配るという方式、それしか認めていないのですが、ひたちなか市としては、もう5キロ圏に限るわけにはいかないと、事前に配布しないと、いざ万が一というとき

にとっても間に合わないということで、独自に薬局にとりに行っていただき、そして問題があるケースについては、医師にかかわっていただくという、医師会、薬剤師会とのしっかり連携を組みながら、そういう方策をとらせていただいております。今、国とも交渉中があります。これは、認めるべきではないかということで、私は少し楽観的に物を考えると、やっぱりこういう方式は当然だろうと思っておりまして、法律改正なり、指針が見直されることを私は期待をしております。残念ながら、やり方は国、県は認めていませんので、交付金をいただけていないのです。これは、非常に理不尽ではないかと私は思っておりますし、ゼリー状の3歳未満のものも、これを確保することができましたから、いろいろ国とのやりとりや、その業界とのやりとりもなかったわけではありませんが、そういうことで配ることも可能になりましたので、ひたちなか市方式でゼリー状の薬剤も配らせていただくということでもあります。

それと、この地域に1つ関係するケースであります。今、本当に保育所のニーズが非常に高まっています。かつては、今まではひたちなか市に待機児童はいないと、行く場所を選ばなければ全くいないという状況なわけですが、働く特に女性が増えておられるのは間違いない状況でして、子ども・子育て審議会、市で設置しておりますが、この先を見通すと、保育所が不足をするという事態になっております。したがって、民間から公募をさせていただいて、2つの保育所が今年度建設をされる予定であります。1つはこの地域内、一中地区内ですが、それでも果たして十分なのかどうかというぐらいの勢いで、今、保育所のニーズが高まっています。その反面、保育士の確保が非常に難しくなっています。東京、横浜は、絶対的に待機児童が多いわけですから、どんどん保育所を、ちゃんとした施設と言えるかどうかは、いろいろ勘案もしながらやっておられるようですが、非常に保育士が不足をしておりますので、この処遇改善といいますか、給与や、その点についても市としても独自でやっているところはありますが、なかなか限界があって、非常に苦慮をしているところではありますが、できる限りの対応をさせていただくということを今やらせていただいているところであります。

なお、学校等の耐震化については、平成29年度予算で全て完了であります。一部改築に回したものがあつて、若干それは国の文科省の予算との関係で、30年度にちょっとずれ込むものが改築ではありますが、耐震化については100%完了ということでもあります。

これもちょっと他地区の話ではありますが、参考にお話しさせていただきますが、子供が非常に少なくなっている地域がこのひたちなか市でもあります。佐野中は、去年までは恐らく全県一のマンモス校だったと思いますが、片や1学年数人という学校も実際あります。今回、旧那珂湊の阿字ヶ浦、磯崎、平磯の中学校2つ、小学校5つを統合させていただいて、小中一貫にする計画であります。場所も候補地を決めて今進めております。その際、結構地元からもご意見をいただいたわけではありますが、やはり余り人数が小さい学校では、集団教育や、いろんな学習面でも、やはりせつかくの教育の機会という意味では、それは限度があるということをお父さんの方に最終的にご理解をいただき、学校がなくなることにつ

いての地元のいろんなご懸念がありますが、地域の自治会やコミュニティをやっぴりしっかりやっていく、そういう環境は私どもも当然手伝わさせていただくということでご理解をいただいて、磯崎駅と今、平磯駅の湊線のちょうど中間に駅を1つつくりまして、その畑が広がっているところでありますが、そこに学校をつくるという計画であります。当然通うのに遠くなる子供がいますので、これは湊線を通ってもらおうということで駅をつくるということでもあります。

今、県内で相当学校の統合が進んでおりまして、スクールバスの運行費が物すごくお金がかかっています。数千万、普通小さい町でもそのぐらいかかりますが、湊線がせっかく残せましたので、湊線を活用すれば、新たにかんりのそういう意味でのスクールバスの代替としての機能は物すごく高いのではないかと、費用も相当低いと思っております。湊線につきましても、市報に載せさせていただいたり、それからいろいろあるごとに、新聞にも載りますので、ある程度ご認識をいただいているかもしれませんが、今、約100万人のお客さんが乗るぐらいに復旧、復活しています。かつて70万人そこそこで、60万人台まで年間落ちるだろうと言われていた湊線が、応援団や本当に社長を初め会社の努力によって、今100万人近くにいこうとしている。ご存じのように、海浜公園は、この5月の連休も、9日間で58万人のお客さんが来ました。4月から見ても、100万人をもう既に突破しているという状況であります。当然、シャトルバスを阿字ヶ浦と海浜公園の間にその期間走らせましたが、今年は例年の倍近くご利用になっているということでありまして、あれだけの交通渋滞や周辺に対するいろいろな問題もありますし、それからあれだけのお客さんが来ていて、駐車場に入ったと思ったら、今度は入場券を買うのに並んで、そしてあつという間に今度は帰らなければいけないということで、本当に市内に来ているのかという話がありまして、観光協会や飲食店関係も実は大いに反省すべきだろうと言っているのです。ですから、やはりここで食事をしていただくとか、もうお土産をいろいろ選んでもらう、そういう道の駅的なものもどうしてもやっぴりぜひ必要ではないかと。湊線も延伸をしながら、そういう対応をしてはどうかと思っております。30年度の国交省の事業認可を得られるように、今、ニーズ調査とか、利用可能性調査とか、収支に向けての調査をやっています。皆さま方は湊線が延伸するなんて、全く何か絵空事のように感じられるかもしれませんが、3キロちょっとというのは、道路を3キロぐらいつくることは、普段やっていることです。ただ会社だから赤字ではないとか、いろいろご心配をいただくわけでありまして。当然そういう面ではしっかり収支計画はつくるつもりであります。今、高齢社会の中で、公共交通が非常に重要です。そういう意味で、湊線もその一翼を当然担うべきでありますし、これだけの多くの観光のお客さんが来ておられるわけですから、そういう誘導をするということが大切だと思います。

なお、財政的に大丈夫かということについて話すと、ちょっと話が長くなるので、余りしませんが、今非常に話題になっておりますふるさと納税を見直ししろと。そのふるさと納税で全国に募ったらどうかと思います。皆さま方に報告させていただきますが、ひたち

なか市は返礼品を出していません。正直言いまして、意固地に出していないのです。あれは使い方を各自治体が全国に向かって発信して、それに応じて寄附をしてもらうというのが趣旨で、申しわけありませんが、今は返礼品目当てのそういうふるさと納税であります。当然見直すということで、自分で使える金から、返礼品に5割とか6割もかけている自治体があるわけです。本来税金で使われるべきものが物に代わるというのは、地域振興的な意味合いがあるという考え方は一部成り立ちますが、やはりおかしいのではないかなと思っておりまして、本来、我々行政は予算を維持するとか、ここでの例えは本当に荒唐無稽に聞こえるかもしれませんが、医師が非常に少ない地域なので、学校をつくりたいとか、今どこかの学校は随分もめていますよね。ああいう話、実は人ごととは思えないところが実際にあるのです。そういうこともありますので、使い道を明示しながら、皆さま方に訴えさせていただくということで、できましたら今までふるさと納税をされた方はいらっしゃるかもしれませんが、やめていただいて、自分のふるさとがどうしても気になるという本来の趣旨では結構であります。東京に出た、「ひよっこ」の谷田部みね子さんが奥茨城村に仕送りするような感じでふるさと納税するのはいいのですが、そうではないケースはちょっとお考え直しをしていただければ、市としてもありがたいかなと。ひたちなか市の場合は、マイナスになっています。そういうことで、ぜひご理解をいただきたいと思っております。

何かちょっと一方的なお話になりましたが、市として今考えている重要なテーマというのはそういうことであります。医師が非常に少ないということも申し上げました。これから間違いなく高齢社会の中で、病院で亡くなるというケースばかり考えていられないというのは正直実態であります。ですから、介護と医療を在宅でどうやって推進するかということも非常に大切なテーマなので、今いろんな機関と連携を図って取り組ませていただこうと思っております。

そういうことで、ちょっとまとまらないご報告、ご挨拶になりましたが、毎回申し上げますが、今日だけが市政懇談会だと思って、今日だけ乗り切れればいいと思っているわけでは決してありません。普段、非常におつき合いをいただいている皆さま方が多いわけですから、その点をご了解いただいているとは思いますが、せっかくの機会でありますから、忌憚のないご意見を賜り、またそれをある意味ではここで答えられるものと、また持ち帰ってもう一度よく検討させてくださいというものもあるかもしれませんが、ぜひ有効な時間としてご活用をいただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。